



○「働」働なくして生まれず ○「禮」禮なくして榮えず ○「信」信なくして立たず

学校教育目標 自らを磨き ふるさとを創る しなやかな子どもの育成
～ 笑顔・元気・挑戦～

新年度がスタートして1か月が過ぎました。連休も明け、学校生活もようやく新しい学年のリズムに馴染み、子どもたちも落ち着いて学習に取り組む姿が見られるようになりました。

4月には満開だった桜の花も今は散り、木々には青々とした若葉が芽吹き始めています。桜の華やかさも心弾むものですが、この時期の若葉の新鮮な緑色には、また格別の美しさを感じます。

子どもたちは、新しい教室や複式ならではの異学年交流を楽しみ、毎日元気いっぱい過ごしています。これからも子どもたちと共に、私たち教職員一同、日々の教育活動をより充実したものにすべく、この新緑のように瑞々しい学びを大切に丸となって取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

授業参観、PTA総会ありがとうございました

各学年の様子を見て回りました。今年度初の授業参観で子ども達もさぞ嬉しかったことと思います。大きな声での発表が多く見られ、張り切っている様子が伺えました。

1・2年生は図画工作科で「ねんどでごちそう なにつくろう」という内容で自分が作ったごちそうについて伝えていました。3・4年生は特別の教科道徳で「権利の熱気球」という内容で人権についてじっくりと考えていました。5・6年生は特別の教科道徳で「心を形に」という内容で、自分の思いをどのように伝えたら良いのかということについて学んでいました。どの学年も楽しく真剣に学んでいる様子を見ていただけたのではないのでしょうか。

PTA総会の中で、学校経営方針についてご説明する貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。今年度の教育目標や複式学級での学び、そして『学び続けることの大切さ』についてお伝えできたこと、大変嬉しく思います。今後も子どもたちが笑顔で日々の学習に臨めるよう、職員一丸となって取り組んでまいります。

個人情報保護のため、
写真の掲載はいたしません

P T A 総会の際、「魅力ある学校に向けて」校長としての思いをお伝えさせていただきました。まず、学校教育目標「自らを磨き ふるさとを創る しなやかな子どもの育成～笑顔・元気・挑戦～」についても始業式で児童に伝えた内容について聞いていただきました。ここで改めて掲載します。

『自らを磨く』

昨日より今日、今日より明日の自分を少しでもよくしていくこと。

勉強でも運動でも、あいさつでも、すぐに大きく変わる必要はないこと。

「漢字を一つ覚えた」「前より少し速く走れた」「自分からあいさつできた」そんな小さな一歩を積み重ねることが、自分を磨くことにつながる。

『ふるさとを創る』

児童達にとってのふるさとは、この学校であり、この地域であること。

ふるさとは、ただ“ある”ものではなく、みんなで“つくっていく”ものであること。

友達を大切にすること、学校をきれいに使うこと、地域の人に元気にあいさつすること。そうした行動が、児童達のふるさとをよりよい場所にしていく。

『しなやかな人になる』

しなやかさとは、折れない強さと、柔らかく対応できる心の両方を持つこと。

うまくいかないことがあっても、すぐにあきらめず、工夫したり、誰かに相談したりできる人になってほしいということ。

そんな人は、どんな時でも前に進むことができる。

このような思いで児童の成長を支えていきます。

また、「正解がない時代」と呼ばれる現代社会を生きていく児童達につけてもらいたい力として「自ら学び、人とつながる」ことの大切さについてもお伝えさせていただきました。完全複式学級となった今年度は、主体的に学習できる単学年での学びと、多人数による磨き合い等ができる複数学年での学びの二つの学びを体験できます。

これらに加えて、学びの定着に向けて守破離のたとえで家庭学習の大切さについてお話をさせていただきました。守破離はもともとは茶道における修行の段階を示す言葉でしたが、現在ではスポーツ、芸術などあらゆる分野の成長プロセスを表す言葉として使われています。2010年のワールドカップで岡田武史監督が掲げた言葉が、私の座右の銘です。その姿勢に深く感銘を受けて以来、学習に取り組む際も常にその言葉を意識するようになっています。今回は、児童の学習の過程について以下のようにお伝えさせていただきました。

守・基本を徹底的に身につける時期【丁寧に・繰り返し・理由を伝える】

毎日の国語や算数の学習をきちんと行うこと

ひらがな・漢字の正しい書き方を身につける

計算の手順を覚える

テンプレートに沿った作文を書く

破・型を破り、応用し始める段階【自由度を与え、失敗を歓迎する】

自主学習を中心にする

計算の工夫をする（暗算の仕方を自分でみつける）

読解で自分なりのメモの取り方を編み出す

作文でテンプレートを少し変えてみる

離・型から離れ、自分のスタイルを確立する段階【子どもの選択を尊重し、伴走者になる】

自分に合った学習方法を見つけ実行する

探究学習で自分の問いを立てられる

我々大人は、子どもが「どの段階にいるか」を見極め、適切な距離感で見守り、共に歩む伴走者として接することが重要です。

学び続ける村岡っ子の育成に向け、今後も家庭と学校が手を取り合い、子どもたちの成長を支えていければと考えております。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。（文責 伊藤）



村岡小学校HP
QRコード